

通所介護 (介護予防) 事例	年齢:74歳 性別:女性 疾患名:パーキンソン病(発病より10年)	要支援1
	<p>【介入までの経緯】 調理は自身の役割だが、食材の購入は宅配と夫。日頃から人の動きを気にするとすくみ足が出やすく、買い物は不可能と思っている。でも本当は生鮮食品は自分で選び調理したい。</p> <p>【本人・家族の生活の目標】 本人:生鮮食品など目で見て確認したいものを、自分自身でスーパーで選び購入したい。夫と一緒に買い物に行きたい。／家族:できることが増えればうれしいが、不安もある。料理は続けられるといい。</p>	

	利用開始時	中間(6ヶ月)	終了(9ヶ月)
ADL・IADL の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL自立 ・調理が自宅での役割(その他の家事は夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーで買物(2回/月)(夫が付添、協力的となる) ・配膳・下膳で台車利用習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除は出来る範囲で実施 ・週1回のスーパーへの買い物が習慣化(夫から誘われるようになる)
生活行為 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カートによるスーパーでの買物を経験する ・自宅内、配膳・下膳時の台車移動に慣れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの環境に慣れ、回数を重ねて自信を持つ ・陳列の配列を覚え、疲労度に配慮しながら移動できる 	<p>【考察】</p> <p>実際場面で評価・介入を繰り返し「できる」と「課題」をその場で共有・フィードバックできたことが目標達成への近道であった。</p> <p>買い物が習慣化したことは、単なる家事の拡大という自宅内での活躍にとどまらず、地域に出て行く習慣や関わりを取り戻し、地域住民のひとりとして顔の見えるつながりへと変化したと考える。</p>
介入 内容	<ol style="list-style-type: none"> ①自主トレ指導 ②スーパーで買物評価 ③スーパーよりカートを借り出し移動練習 	<ol style="list-style-type: none"> ①カート押しでのすくみ足対策 ②移動時の夫の立ち位置検討 ③商品棚へのリーチ位置確認 ④疲労度合いと役割分担検討 	

同行者がいれば買い物が可能に



スーパーを想定しての模擬的アプローチ

実際場面で活動参加を繰り返し習慣化へ向けたアプローチ

スーパー内での役割を分担し生鮮品選びは一人で可能に



活動の習慣化 役割の拡大へ 地域とのつながり

結果 : 週1回:スーパーでの食材購入/月1回:街での買い物が習慣化、九州旅行への挑戦ができた

課題 : 通所介護:利用時間内のみにとられず、時間外の活動や必要に応じた訪問が計画に基づき介入できるしくみが必要。